

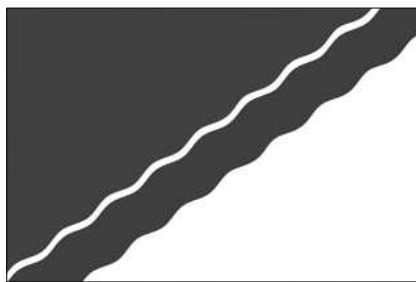
ノボシビルスクの概要

ノボシビルスク——ロシア連邦西シベリア中部のノボシビルスク州の州都であり、シベリア連邦管区の中心都市。西シベリア低地南部のオビ川兩岸にまたがる河港都市でもあり、ロシアにおける芸術、文化、学術の一大中心地として発展を続けている。

市章・市旗

現在の市章は、1993年1月に決定されたものであるが、市章の緑色は健康とシベリアの自然を、白はシベリアの純粹と雪を、青い波形の帯はオビ川を、そして黒と銀の細い縞はシベリア鉄道を表わしている。これらが交差するところは、ノボシビルスクの起源と発展の基礎となったオビ川をまたぐ橋を表わしている。上部の王冠は、ノボシビルスク市が地域の中心であることを意味している。また、黒テンと弓矢は古くからあるシベリアの紋章に由来し、下部リボンの色は、ノボシビルスク市旗の白、青、緑と一致している。

市旗は市章の中心部と同様、緑、青、白の三色からなっている。



歴史

1893年、シベリア鉄道のオビ川鉄橋と鉄道駅の建設の際にできた集落が起源となっており、創設者はオビ川の鉄橋建設を指導した技師であり作家でもあるガリン＝ミハイロフスキーとされている。翌1894年に集落はアレクサンドロフスキーと名付けられ、その翌年にはノボニコラエフスキーと改称された。1903年に市となりノボニコラエフスクと呼ばれるようになった。当時は、典型的な商人の町で、アメリカの開拓地を思わせるものがあり、「シブ・シカゴ（シベリアのシカゴ）」とも呼ばれていた。1926年には「新シベリア」を意味する現名称「ノボシビルスク」に改称された。

ソビエト政権下においてはシベリア開発の中心地と位置づけられ、政府主導により産業コンビナート・学術施設等が整備され、街の規模は他に類をみない速度で拡大していった。

プーチン政権になった2000年には、ロシア全土を7連邦管区に分け、その1つであるシベリア連邦管区の中心都市として、ノボシビルスクが選ばれた。



◆ノボシビルスクの歩み◆

1865年	オビ川での蒸気船の運行開始
1893年	オビ川の鉄橋と鉄道駅の建設開始。集落が形成される。
1897年	オビ川鉄橋、鉄道駅完成 町の人口は7,800人
1903年	市制施行（ノボニコラエフスク市）人口22,000人
1917年	人口80,000人 電話、発電所の操業開始
1926年	ノボシビルスク市に名称変更
1928年	モスクワーノボシビルスク間の航空便運行開始
1930年	西シベリア地方の首都となる。
1937年	ノボシビルスク州の州都となる。
1945年	ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場完成
1953年	水力発電所の建設（～1959年。貯水池の最長直径240km）
1957年	アカデムゴロドクの建設開始
1958年	ノボシビルスク国立美術館オープン
1959年	ノボシビルスク国立大学開校
1962年	人口1,000,000人突破
1979年	地下鉄建設開始（1986年開業）
1982年	人口1,400,000人突破
1993年	開基100周年
1994年	トルマチョボ空港国際化
2000年	ロシア全土が7連邦管区制になり、シベリア連邦管区を中心都市として選ばれる。
2003年	開基110周年
2010年	ノボシビルスク・テクノパーク建設
2012年	ロシアのアジア部で最大のプラネタリウムオープン。人口1,500,000人突破
2013年	開基120周年。「スポーツ・芸術・知性国際子ども大会」開催。

地理的位置と気候

地 理	南北45キロ、東西26.5キロ	
位 置	北緯55度01分、東緯82度55分（札幌は北緯43度03分、東緯141度21分）	
札幌とノボシビルスクの距離	約4,000キロ	
日本との時差	3時間、夏は2時間	
史上最高気温	40度	
7月平均気温	19度	
史上最低気温	マイナス51度	
1月平均気温	マイナス19度	
降 雪 量	約1メートル	

人口と面積

人口は、1,567,087人(2015年1月1日)で、モスクワ、サンクトペテルブルグに次ぐロシア第3位の都市。面積は、約502 km²(札幌1,121 km²)。

ノボシビルスクは、人口100万人に達するのに68年しかかかっておらず、同じ100万人に達するのに89年を要したシカゴを抜いて、世界で最も人口が急成長した都市と言われている。

これは、石炭・鉄鉱石等の鉱物の他、森林、農産物などの豊富な天然資源を背景に、シベリア開発の中心都市として整備されたことに伴い、多くの技術者労働者が移住してきた歴史と関連が深いといえる。

また、民族的な構成はロシア人が93%を占め、その他はウクライナ人、タタール人、アルメニア人、ドイツ人等となっている。

交通

都心から西へ約25kmの所に空の玄関口トルマチョボ空港がある。国内線のみならず、国際空港として旧ソ連諸国のほか、ドイツなどのヨーロッパ諸国、イスラエル等中東諸国、モンゴル、中国などと結ばれており、シベリア横断ルートの中継基地となっている。

また、シベリア鉄道が東西に伸び、シベリア最大の鉄道ターミナル、さらにオビ川の河川港など、交通の要衝として重要な役割を果たしている。



市内の交通としては、地下鉄、バス、トロリーバス、路面電車、ミニバス(マルシュルートカ)などの公共交通機関が主体となっている。

シベリア極東地域では初めてとなるノボシビルスクの地下鉄は、1986年1月7日に開業。現在、レーニン線(8駅)とジェルジンスキー線(5駅)の2路線で総距離約15.9kmの営業をしており、建設工事は今も続いている。最高速度は時速80kmで、朝夕のラッシュ時には、2分40秒間隔で運行されている。

産業

1917年のソビエト革命政権樹立後、ノボシビルスクは周辺の恵まれた資源を生かして工業の一大中心地となった。

市の代表的な企業のほとんどは工業製品を製造しており、いわゆる大手企業は200社ほどに上る。主な製造品としては、航空機をはじめとする各種機械類、電化製品などがある。また、鉄鋼・非鉄金属の精製加工、化学製品や靴、洋服、家具などを製造する工場もある。

また、発達した農業を生かして数多くの食品加工工場もあり、農業生産物は、156万人のノボシビルスク市民はもとより、シベリアの他の地域にも供給されている。

しかし、ソ連崩壊後の政治経済の混乱により製造業は一時大きな打撃を受け、特に機械・金属工業など重工業の占める位置が相対的に低下している。ソ連時代、ノボシビルスクは軍需産業の中心地でもあったが、近年の産業構造の変化に伴い、蓄積された高度な技術を活用し、民需産業への転換とハイテク・情報技術産業の育成を図っている。

商業活動としては、経済の自由化に伴い、商業、金融業などをはじめとするサービス業が伸びてきている。また、大規模な施設も有し国際見本市を含め、大小様々な見本市も年間を通して開催されている。

ノボシビルスク市は、2001年にWTA(World Technopolis Association)に入会し、2005年10月に第4回WTAテクノマートを開催した。

芸術・文化・スポーツ

音楽、バレエ、演劇など質の高い優れた芸術・文化を誇るロシアの中でも、ノボシビルスクはその一大中心地となっている。

1945年に完成した「ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場」は、世界最大規模の舞台を誇り、シベリアのボリショイ劇場と呼ばれ、市のシンボリック的存在となっている。

また、市内で最も古い国立劇場「クラスヌイ・ファケル」、実験的な演出の劇場「スターレイ・ドム」、帆船の形をしたユニークな建物「グローブス」、「ミュージカル・コメディ劇場」、「人形劇場」など15カ所のプロ劇団以外にも劇場を有し、1年間で75万人以上の人々が劇場に足を運ぶ。

音楽の分野では、ノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団、シベリア民族合唱団、ロシア民族楽器オーケストラ、室内合唱団など世界的に活躍するプロの芸術集団が活躍している。

また、ノボシビルスクのサーカスの歴史は、1899年に始まり、1970年から一年を通して、ロシア国内外の劇団によって上演されている。

シベリアで最大規模を誇るノボシビルスク国立美術館では、ロシアの著名な画家の作品のほか、シベリア派のイコン（宗教画）のコレクションが充実している。

優れた芸術文化を育んだ背景として、ノボシビルスク国立グリнка音楽院、ノボシビルスク国立建築・美術学院、バレエ学校、演劇学校、ノボシビルスク国立教育大学美術学部など優れた芸術家を輩出している教育機関があげられる。特に、ウラル以東で唯一の国立音楽院付属専門学校では、シベリア・極東地域の各都市から集まる才能豊かな若者たちにプロになる英才教育を行っており、1980年代には名教師ザハール・ブロン（現在ドイツ在住）の指導のもと、バイオリニストのワディム・レーピン、マキシム・ベンゲーロフが、他にもバイオリニストのアントン・バラホフスキーをはじめ世界的に活躍する音楽家を多数輩出している。さらに、ノボシビルスク音楽院からは、世界中の主な歌劇場に出演しているガリーナ・ゴルチャコワやPMFにも参加し近年注目を集めているエテリ・グワザワなど優れたソプラノ歌手が活躍している。



国立青年劇場グローブス

市内の創作活動団体としては、画家、作家、作曲家、建築家、映画関係者、ジャーナリスト、その他多くの分野で精力的に活動を行っているほか、多数の文化会館が文化活動を行っている。

スポーツでは、国民的スポーツのサッカーはもちろん、レスリングや柔道などの各種格闘技、アイスホッケー、ノルディックスキー、バイアスロン、スケートなどのウィンタースポーツが盛んであり、市内に多くのスポーツ



ノボシビルスク州立郷土博物館

施設、教育機関がある。また、サッカーを始め、アイスホッケー、バレーボール男女、バスケットボール男女といった6つのプロチームも有し優れた選手も多く活躍している。特に、ノボシビルスク出身の元レスリング選手アレクサンドル・カレリンは、国民的英雄として尊敬を集めていて、2011年からロシア連邦議会国家院（日本の衆議院に相当）の議員である。ノボシビルスクには、16人のオリンピック金メダリストがいる。

学術・教育

ノボシビルスクには、ロシア連邦「科学アカデミー・シベリア支部」（研究所：約50カ所）、「農業アカデミー・シベリア支部」（研究所：29カ所）、「医学アカデミー・シベリア支部」（研究所：8カ所）、「建築・建設科学アカデミー・シベリア地方支部」、という4つのアカデミーが置かれ、多くの学者たちが、シベリア全域の諸問題解決に当たっている。

科学アカデミー・シベリア支部の設置は、シベリア・極東の科学力を強化し、資源開発を促進することを目的として1957年に政府決定され、その後、急速なテンポで市中心部から28km離れた地区に研究所群や研究者と家族のための住宅が次々と建設された。20カ所以上の研究所を含むこの地区は「アカデムゴロドク」と呼ばれ、国内のみならず、国際的な学術センターの一つとなっている。なかでも原子物理学研究所は世界的な規模を誇り、ペレストロイカ期の経済改革においてノボシビルスクの経済学者が果たした役割は大きいといわれている。シベリア支部の研究所は、シベリア・極東地域の各都市にも置かれているが、特に基礎科学研究の分野はノボシビルスクに集中している。なお、日本の機関としては、東北大学が科学アカデミー・シベリア支部と「共同ラボラトリー」を設置しており、学术交流や共同研究を行っている。

また、科学アカデミー・シベリア支部に属する国立科学技術公共図書館は、国連受託図書館にもなっており、1,400万冊を超える蔵書数はシベリア・極東で最大である。

大学は支部を含めて国立が18校、私立が16校あり(全:34校)、大学全体で120,000人以上の学生が学んでいる。なかでも、1959年に設立されたノボシビルスク国立大学は、アカデムゴロドクに位置し、科学と教育の統合を基本活動方針とする科学アカデミー・シベリア支部と密接な関係を有している。

ノボシビルスクにはシベリア日本語教育協会があり、7カ所の大学とシベリア・北海道文化センターなどでは多くの学生が日本語を学んでいる。



世界の中のノボシビルスク

ノボシビルスクはシベリア開発の中心地として発展してきたため、帝政、ソ連時代を通じて国内外から学者、技術者や労働者が集まってまちづくりが行われてきた。このため、外国との結びつきが強く、第二次世界大戦前には日本の領事館も置かれていた。また、第二次世界大戦後はシベリアに抑留された日本人を収容した病院もあったため、小規模ながら日本人墓地も存在する。

ソ連崩壊後は、企業の進出、航空路線の開設等外国との交流が活発になっているが、特にドイツとの結びつきが活発である。総領事館も設置されているが、ドイツ系の移民が比較的多かったという歴史的背景も考えられる。ドイツ総領事館の他に、ウズベキスタン総領事館、ウクライナ領事館、大韓貿易投資振興公社(KOTRA)、イタリア貿易振興会ノボシビルスク事務所などの外国公館があり、ノボシビルスク・アリアンスフランセーズ、孔子学院、ゲーテ・インスティトゥート(ドイツ文化センター)、イスラエル文化センター、市立シベリア・北海道文化センターなどの国際交流機関もある。

ノボシビルスク市は、札幌市のほか、アメリカのミネアポリス市、セント・ポール市(1989年2月9日)、中国の綿陽市(1994年8月18日)と瀋陽市(2013年5月29日)、韓国の大田市(2001年10月22日)、ブルガリアのヴァルナ市(2008年6月28日)、キルギスのオシ市(2009年6月27日)、ウクライナのハルキウ市(2011年8月24日)、ベラルーシのミンスク市(2012年6月23日)、アルメニアのエレバン市(2014年10月10日)、モンゴルのウランバートル市(2015年10月5日)と姉妹都市提携を結んでいる。

ノボシビルスク市役所の正式ホームページ: <http://www.novo-sibirsk.ru/> (ロシア語)

ノボシビルスクのみどころ

ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場

Новосибирский Государственный Академический Театр Оперы и Балета

このオペラ・バレエ劇場は1945年5月12日にオープンしたロシアで最も大きな劇場です(建築容積は294,000立方メートル)。

目を引く外観、特に当時ヨーロッパで初めて使われたユニークな銀色の円形屋根の劇場は、市民に身近でわかりやすいシンボルとなっています。

1998年シーズンにはロシアで最も素晴らしい劇場と呼ばれるようになり、それ以降、ロシアの演劇界で最も評価の高い賞である「ゴールデンマスク」(最優秀賞)を何度も受賞しています。



聖ニコライ記念礼拝堂

Часовня святого Николая

ノボシビルスクのメイン通りである「赤大通り」にあり、ノボシビルスクのシンボルの一つとなっています。ロマノフ王政権300年を記念し、1913年から建築が始まり、1915年に神聖化された。1930年に破壊されましたが、1993年に再建築され、現在の姿になりました。ロシア帝国時代、教会の位置が国土のちょうど真ん中にあっただため、「ロシアのヘソ」と呼ばれています。

ロシア正教協会の特徴を現している建物は、観光客に人気のスポットであるとともに、ノボシビルスク市民がとても誇りに思う名所の一つです。この礼拝堂をモチーフにしたお土産も数多く売られています。



オビ川鉄橋

Железнодорожный мост через р.Обь

ノボシビルスクにとって、シベリア鉄道はなくてはならない存在です。

市の中心を流れるオビ川にかかる鉄橋は、ノボシビルスク史の始まりであり、当時、シベリア鉄道建設に携わった労働者がノボシビルスク最初の市民となり、ノボシビルスク市旗にも表されています。19世紀に造られた古い橋の一部は、ノボシビルスク誕生記念公園の中心となっています。



シベリア鉄道ノボシビルスク駅

Вокзал Новосибирск - Главный



現在のノボシビルスク駅の建物は、1932年から1939年にかけて建設され、ノボシビルスクのシンボルの1つになっています。シベリア鉄道最大の駅で、内装は大理石などの自然石で作られ、外装はきれいな緑色。駅前には、1891年にオビ川の鉄橋位置を決定したガリン＝ミハイロフスキーの記念広場があります。

アカデムゴロドク

Академгородок

ノボシビルスク市内から約30km、オビ川の人工湖の岸にあるアカデムゴロドク（アカデミーの町）の歴史は、1957年から始まりました。ロシア科学アカデミー・シベリア支部の20ヶ所以上の研究所とノボシビルスク国立大学がある科学者の町です。自然に恵まれたアカデムゴロドクは、その独特な雰囲気から観光スポットにもなっており、国際的規模の学会もしばしば開かれています。そして、IT産業を発展させるため、2010年からはノボシビルスク・テクノパークが建設され、ロシアの頭脳を結集し、米国のシリコンバレーに優るとも劣らないIT産業センターを目指しています。現在、IT産業のベンチャー企業のみならず、バイオ・医療分野の企業も含め、約70社が加入しています。



ロシアの近代建築と木造の教会、近代科学技術展示場と資源の豊かなシベリアの地質学博物館、並木道と広い道路などのコントラストが綺麗な町でもあります。